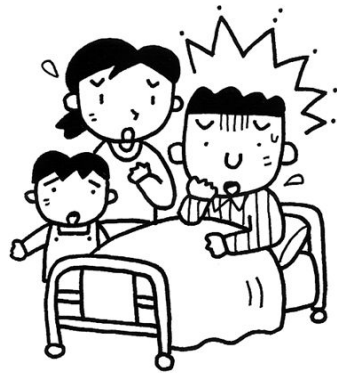


日赤新人看護師自死事件原告の方のお話を伺いました

パワハラ自死をなくしたい



2013(平成25)年、釧路赤十字病院で、入社して半年の新人看護師・村山譲さんが、実家で自死しました。

村山さんは、新人ながら仕事の厳しい「手術室」に配属されました。医療技術の未熟さもあつたのでしょうか、ことあるたびに、医師や上司の看護師な

どから、厳しい叱責を受けていました。そのなかには「お前はオペ室のお荷物」という人格否定のパワハラ発言もありました。また、本来業務から外され、「仕事を与えない」などのペナルティが課されていたとの情報もあります。こうした強い心理的な圧迫で、うつ病などの精神障害を発病、これが自死の原因になったと考えられています。

村山譲さんのお母さんと党市議団が懇談

3月3日、原告の村山百合子さん(譲さんの母親)が党市議団と懇談しました。

とくに、原告からは、「日赤病院の職場の実態、パワハラなどの問題について、情報提供してくれる方を探しています。ぜひ共産党の議員の皆さんも力を貸してほしい。」との要請を受けました。



当時の日赤病院のことについて、職員の勤務状況、パワハラや病院の様子などのお話を伺える方を探しています。直接、自死事件については知らないという方でも結構です。お話をうかがえる方、関係者を知っているという方は、ぜひ、ご連絡ください。

日本共産党市議団 Tel22-6121

村上かずしげ 通信 20.03.08

発行 日本共産党市議団 Tel23-5212